



独立行政法人国立高等専門学校機構
宇部工業高等専門学校

平成24年度 環境報告書



平成25年11月

目 次

1	校長メッセージ	1
2	対象となる組織・範囲・期間	2
3	本校の概要	2
4	学習・教育目標	3
5	環境方針	3
6	中期目標・中期計画における環境配慮関連事項	3
7	中期計画・中期目標に対する取組の状況	4
8	環境マネジメントシステムの組織・体制及び環境目的・環境目標とその取組状況	5
9	法規則の遵守	6
10	環境教育・研究の状況	
	①環境教育に関する状況	6
	②環境に関する共同研究等の状況	6
11	事業活動に伴う環境負荷及び低減に向けた取組	
	①光熱水の状況	7
	②新エネルギー利用状況	7
	③生ゴミ等の排出状況	8
	④産業廃棄物の排出状況	8
	⑤公用自動車の使用状況	8
	⑥グリーン購入の状況	8
12	温室効果ガス(CO ₂)の排出の状況	8
13	その他学内の取組の状況	
	①エコフェア2012 in UBEへの出典	9
	②グリーンカーテンについての公開講座	9
	③ごみ減量の活動	10
	④省エネ対策	10
	⑤毒・劇物の管理状況	10
	⑥教職員の通勤に関する状況	11
14	その他	11
	資料(次頁参照)	12-29
	学校位置図	30

【資料編】

○別紙 1	建物一覧・建物配置図	12
○別紙 2	環境方針	14
○別紙 3	宇部工業高等専門学校環境マネジメント組織・運用体制	15
	宇部工業高等専門学校環境マネジメントシステムの役割と責任	16
	「環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標	17
	「環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画	18
○別紙 4	平成 24 年度 環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況	19
○別紙 5	環境に関する共同研究等	22
○別紙 6	水道光熱費の比較表	
	別紙 6-1 平成 22～24 年度 電気使用量の比較	23
	別紙 6-2 平成 22～24 年度 ガス使用量の比較	24
	別紙 6-3 平成 22～24 年度 水道使用量の比較	25
	別紙 6-4 平成 20～24 年度 電気ガス水道使用量の比較	26
○別紙 7	生ゴミ等の排出量	27
○別紙 8	産業廃棄物の排出量	28
○別紙 9	温室効果ガス（CO ₂ ）の排出量比較	29

1 校長メッセージ

我が国は、1960年代の高度経済成長が象徴するように、戦後、物質的・経済的な豊かさを追求してきましたが、一方、その陰で、地球温暖化や生物多様性の損失などの環境問題が年々深刻な状況になりつつあります。現代を生きる世代として、未来を生きる子供達に負の遺産を残すことがないように、環境汚染などの問題をできる限り解決するとともに、経済的な豊かさに加えて、自然環境や生活環境の豊かさをも包含する持続可能で真に豊かな社会を築き上げ、未来の子供達に繋いでいくことが益々求められています。



ところで、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの尊い命が犠牲となるだけでなく、ライフラインの断絶など、甚大な被害をもたらしました。特に津波被害による福島原子力発電所の事故は、深刻な原子力災害によって環境中に放出された放射性物質による汚染の影響が甚大であり、私たちは、除染や放射性廃棄物の処理などの長期的課題を背負うとともに、これからのエネルギー供給や自然との関係について、改めて考え直す必要に迫られています。

また、「東日本大震災後の環境保全に対する意識の変化」についての調査では、特に「節電や省エネルギー」「放射能の影響」について、60%以上の人が重視するようになったことが明らかとなりました。

本校としても、今後、本科・専攻科におけるエネルギー・環境教育について、技術者としての倫理観をいっそう高めていく必要があります。

本報告書は、平成24年度における本校の環境保全に向けた取組について取り纏めたものです。環境教育や省エネ設備の整備、省エネパトロールを実施し、環境保全、資源や設備の有効利用に関する自己点検や取組意識の向上を促すとともに、老朽化した設備の更新による高効率化、空調機の集中管理の推進により消費エネルギーの削減に努めてまいりました。また研究においても、環境保全関係の応用・開発研究を推進しております。これらの結果を、次年度の活動方針の策定に役立て、本取組のさらなる推進を図る所存です。

地球環境保全に向けては、本校では地域社会と連携した教育・研究活動を通じて、持続的発展・循環型社会の一翼を担う学際的な視野を持った中核的技術者の養成に努めてまいります。その一環として、平成22年度以降入学の全学科の学生を対象に、環境・安全を共通のキーワードとする新しい教養・導入教育『マトリックス型基盤教育プログラム』を実施しております。学生諸君の勉学意欲向上に繋がる動機づけ、技術者スピリットの醸成、環境に配慮する心の育成に役立つことを期待しています。

2 対象となる組織・範囲・期間

○組 織 本 科（機械工学科，電気工学科，制御情報工学科，物質工学科，経営情報学科，一般科）

専攻科（生産システム工学専攻，物質工学専攻，経営情報工学専攻）

図書館，情報処理センター，地域共同テクノセンター，技術室

福利厚生施設（学生会館，ものづくり工房，クラブハウス），課外活動施設

事務部（総務課，学生課，企画連携事務室），学生寮

○対象範囲 校舎地区，寄宿舎地区，運動場のすべて

○期 間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

3 本校の概要

○所 在 山口県宇部市常盤台2-14-1

○創 立 昭和37年4月1日

○土地面積 校舎地区 35,295 m² 寄宿舎地区 13,024 m²

運 動 場 26,118 m²

○建物面積 校舎地区 建面積合計 10,606 m² 延面積合計 23,493 m²

寄宿舎地区 建面積合計 3,281 m² 延面積合計 9,133 m²

そ の 他 建面積合計 255 m² 延面積合計 244 m² （詳細は，別紙1）

○教育組織 本 科 機械工学科(40名)，電気工学科(40名)，制御情報工学科(40名)，物質工学科(40名)，経営情報学科(40名) ※()は入学定員

専 攻 科 生産システム工学専攻(12名)，物質工学専攻(4名)，経営情報工学専攻(4名) ※()は入学定員

そ の 他 図書館，情報処理センター，地域共同テクノセンター，学生会館，ものづくり工房，学生寮

○教 職 員 数 校長，教授 24 名，准教授 37 名，講師 9 名，助教 6 名，助手 0 名，職員 47 名

（平成25年5月1日現在）

○学 生 数 機械工学科 209 名，電気工学科 201 名，制御情報工学科 216 名，物質工学科 213 名，経営情報学科 206 名，合計 1,045 名 （平成25年5月1日現在）

○専攻科生数 生産システム工学専攻 44 名，物質工学専攻 15 名，経営情報工学専攻 11 名，合計 70 名

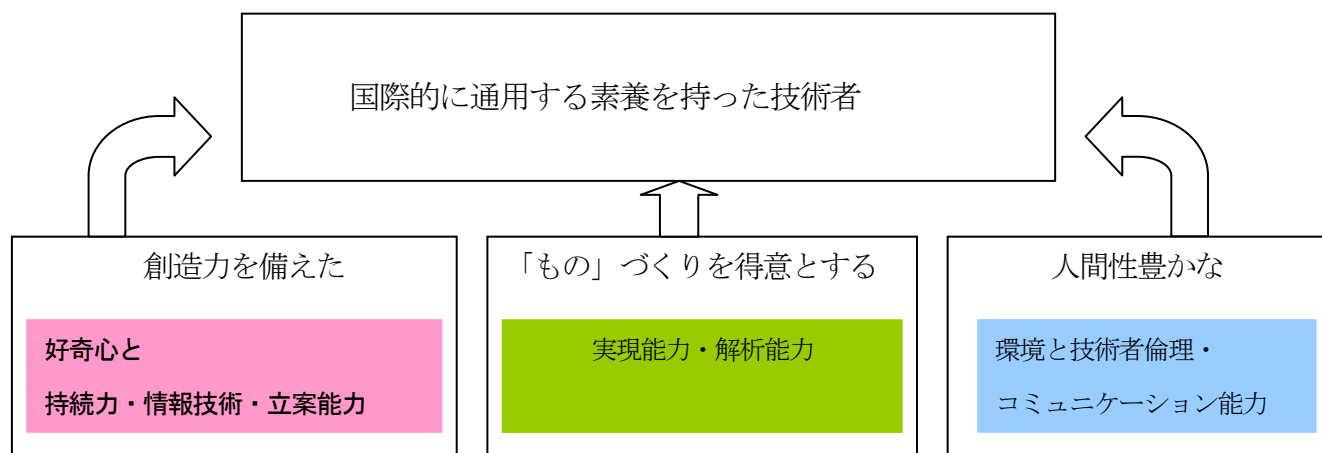
（平成25年5月1日現在）

○卒 業 者 数 本科生 191 名，専攻科生 34 名 （平成24年度）

4 学習・教育目標

本校は、「もの」づくりを得意とする技術者の養成を目指します。そのために本科では、人間倫理の涵養を最優先し、自然科学に関する基礎学力、語学力、情報処理能力を養うとともに、各学科では、それぞれ、機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学、経営情報学に関する技術的・実践的基礎能力を培います。

専攻科では、自然科学に関するより進んだ学力と上述した各専門分野の学問・技術に関わるさらに高度な能力を養成するとともに、これらを融合・複合して、事象・現象を複眼的視野で総合的に捉えることができる能力を養成します。



5 環境方針

環境方針は、別紙2のとおり、平成18年5月に定めた。

6 中期目標・中期計画における環境配慮関連事項

- ①地球環境保全のため、教育・研究活動において環境との共生を意識し、環境負荷の低減を推進する。
 - ・地球環境を意識した循環型社会の形成に取り組みが出来るよう学生への環境教育の推進を図る。
 - ・本校の施設の運用に関しては温室効果ガスの排出抑制の検討をするとともに積極的にその実施を図る。
- ②省エネ・コスト意識の徹底化を進め、管理的経費の抑制を図るとともに、施設、備品等の有効活用を推進する。
 - ・光熱水費節減を徹底するため、巡回・監視体制を確立するとともに、各建物毎のエネルギー(電力、水道等)使用状況の把握・公表に向けて検討する。
 - ・学内を挙げた「省エネキャンペーン運動」等省エネ活動を実施する。
 - ・会議資料等のペーパーレス化を促進する。
 - ・定期的に施設・備品等の使用状況を確認し、有効活用の促進を図る。
- ③運用面の改善と平行し、積極的な設備投資を行い、施設・設備面の改善を推進する。
 - ・自動節電・節水装置の設置、高効率型照明器具への更新、建物の断熱化等を推進する。
 - ・施設の大規模改修を行う際には、太陽光発電、雨水再利用システム等、自然エネルギーを利用した設備

の導入を検討する。

7 中期計画・中期目標に対する取組の状況

平成21年度から第2期中期目標に対する中期計画に取り組んでいる。以下は第2期中期計画の環境に関連した項目に対する平成24年度の取り組みである。

①～③は中期目標の環境に関連する項目

各・は各中期目標に対する中期計画

各○は各中期計画に対応する平成24年度計画

各◎は各年度計画に対する取り組み

①地球環境保全のため、教育・研究活動において環境との共生を意識し、環境負荷の低減を推進する。

・地球環境を意識した循環型社会の形成に取り組みが出来るよう学生への環境教育の推進を図る。

○環境・安全をキーワードとした「マトリックス型基盤教育による技術者スピリットの熟成プログラム」を継続して行う。

◎「マトリックス型基盤教育による技術者スピリットの熟成プログラム」を、導入教育の一環としてホームルームの時間を利用して、前期に1年生に2回、2年生に3回実施した。また、後期に1年生は3回、2年生は2回、3年生は1回実施した。

○教室、校内の美化を維持するための教育面での指導を行う。学級担任への要請は学級担任連絡会を通じて行う。

◎前期期間中に6回、後期に5回の学級担任連絡会を開催し、教室及び学内の美化に関する学生指導を学級担任へ要請した。

・本校の施設の運用に関しては温室効果ガスの排出抑制の検討をするとともに積極的にその実施を図る。

○老朽化した学生寄宿舍の蒸気暖房設備について、寄宿舍改修に合わせ、順次エアコン設備への転換を図る。

◎寄宿舍地区改修整備計画を作成し、今後これを基に予算要求することで、学生寮蒸気暖房について、エアコン設備への転換を図ることとした。

○エアコン、照明器具等の取替時には省エネ型の機器を優先的に取り入れる。

◎省エネを徹底するため、夏季及び冬季省エネパトロールを実施した。また、事務部を対象にお盆の前後を利用して、9日間の一斉休業を実施した。

◎制御情報工学科棟の空調機を、リース契約による高効率空調機に更新し、省エネを推進した。

○夏期期間にはグリーンカーテンの整備を行う。

◎グリーンカーテンの整備を2カ所において実施した。

②省エネ・コスト意識の徹底化を進め、管理的経費の抑制を図るとともに、施設、備品等の有効活用を推進する。

・光熱水費節減を徹底するため、巡回・監視体制を確立するとともに、各建物毎のエネルギー（電力、水道

等)使用状況の把握・公表に向けて検討する。

○運営委員会において、校舎地区・学寮地区における光熱水量について、3ヶ月単位で報告を行う。

◎運営委員会において、校舎地区・学寮地区における光熱水量について、3ヶ月単位で報告を行い、省エネ意識の啓蒙を図るとともに、光熱水費節減に努めた。

・学内を挙げた「省エネキャンペーン運動」等省エネ活動を実施する。

○省エネを徹底するために、夏期及び冬期のエアコン使用期間にパトロールを実施する。

◎省エネを徹底するため、夏期及び冬季省エネパトロールを実施した。また、事務部を対象にお盆の前後を利用して、9日間の一斉休業を実施した。この結果、中国電力からの夏季の節電要請に対して、校舎地区の7月～8月の電気使用量について、平成22年度を基準として3%削減することができた。

・会議資料等のペーパーレス化を促進する。

○会議等における資料の見直しを行い、ペーパーレス化を図る。

◎会議資料について、極力省略化を推進し、重要案件に係る資料については審議に必要であるため両面コピー、白黒色で対応した。今後とも、電子化も視野に入れ、積極的にペーパーレス化を推進する。

・定期的に施設・備品等の使用状況を確認し、有効活用の促進を図る。

○施設の利用状況、物品等の使用状況を確認し、有効活用の促進を図る。

◎施設の利用状況を確認し、放射性物質の保管室を確保した。また、不用物品の再利用について、電子メールで照会を行う等、施設、物品の有効活用を図った。

③運用面の改善と平行し、積極的な設備投資を行い、施設・設備面の改善を推進する。

・自動節電・節水装置の設置、高効率型照明器具への更新、建物の断熱化等を推進する。

○自動節電・節水装置の設置、高効率型照明器具への更新、建物の断熱化等を推進する。

◎校舎地区についてはほぼ完了した。今後、寄宿舍地区について自動節電・節水装置の設置、高効率型照明器具への更新を順次進める。

・施設の大規模改修を行う際には、太陽光発電、雨水再利用システム等、自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。

○学生寮の改修に合わせ、維持費が多大となっている蒸気暖房からエアコン設備への転換を図る。

◎寄宿舍地区改修整備計画を作成し、今後これを基に予算要求することで、学生寮蒸気暖房について、エアコン設備への転換を図ることとした。校舎地区制御棟について、リース契約による省エネ型エアコンを導入した。

8 環境マネジメントシステムの組織・体制及び環境目的・環境目標とその取組状況

別紙3のとおり、校長を総責任者として、全教職員及び学生で取り組むこととしている。この計画に対する取り組みの状況は別紙4の通りで、概ね達成できた。

9 法規則遵守の状況

遵守した。

10 環境教育・研究の状況

① 環境教育に関する状況

本科生については、社会科学関連科目において環境・エネルギー問題について教育を行っている。更に、物質工学科所属学生を中心に講義、演習、実験を通じて、環境関連の学習を行った。

専攻科生については、次の授業を開講した。

○環境と社会

環境問題について、文明論的、社会学的、地球科学的な視点から講義をした。

○技術者倫理

環境問題を企業に勤務する技術者の倫理の点から考える講義をした。

○環境科学

地球規模の諸問題、日本における諸問題を、具体的事例を交えて講義した。

○環境制御工学

水質汚濁について発生から機構、環境への影響、防止対策、処理技術、測定技術について講義をした。

○教養化学

物質の構成や化学反応について学んだ後、環境問題について講義した。

本科については、次の授業を開講した。

○現代社会

現代社会の特質、青年期の心理学等の身近で切実な問題の外、地球環境問題、資源・エネルギー問題或いは人口問題といった現代文明が直面する課題を講義した。

○環境安全工学

環境問題、環境管理、廃棄物問題と循環型社会について講義した。

これらの他に、宇部高専では平成22年度から導入教育の一環として「マトリックス型基盤教育による技術者スピリットの熟成プログラム」を実施しており、その中で環境をテーマとして取り入れている。平成24年度は、本科1，2年生全員に5回，3年生に1回の授業を行った。

② 環境に関する共同研究等の状況

環境に関する共同研究等については、別紙5のとおり、共同研究3件，科学研究費補助金2件である。

1.1 事業活動に伴う環境負荷及び低減に向けた取組

① 光熱水の状況

本校は、教育研究の中心の場としての校舎地区（運動場・プールを含む。）、学生の生活の場としての寄宿舎地区で構成されており、24年度の使用量について、前年度及び前々年度と比較すると別紙6-1～3のとおりとなった。また、参考として20年度からのものを別紙6-4として添付する。

○ 電気使用量については、前年度比で、校舎地区 0.37% (5,580kWh) 増、寄宿舎地区 3.03% (15,433kWh) 増となった。

校舎地区と比較して寄宿舎地区の増加量が大きいのは、平成23年度の女子寮におけるエアコン運転が冬期のみ（女子寮のエアコンは23年度11月からの運転のため）で、平成24年度は冬期分に加えて夏期分のエアコン使用電力量が増えたためである。

○ ガス使用量については、前年度比で、校舎地区 11.4% (3,849m³) 減、寄宿舎地区 1.20% (90m³) 減となった。校舎地区、寄宿舎地区共にガス使用量が減少している。

○ 水道使用量については、前年度比で、校舎地区 43.7%増 (4,793m³)、寄宿舎地区 1.75%増 (424m³) となった。

校舎地区における水道使用量の増加は平成24年6月にトイレの流量調節を行ったためである。

20年度からのデータを見ると、電気については使用量がじわじわ上がってきており、平成20年度と比較して校舎地区では 115,824kWh、寄宿舎地区では 19,706kWh 増加している。また平成25年度以降、大電力実験機器の導入、寮における蒸気暖房廃止に伴うエアコン整備等が予定されており、今後使用電力量の大幅な増加は避けられないことが予想される。ガスについては、ここ5年間で校舎地区・寄宿舎地区共に使用量が減少し、校舎地区では平成20年度比で 5,429m³、寄宿舎地区では 574m³ 減少している。水道について、寄宿舎地区においては横ばいであるが、校舎地区では平成20年度と比較して 7560m³ 増加している。学生・教職員全体での節水への取り組み、設備更新・改修等の際における節水設備の導入等を今後加速させる必要がある。

② 新エネルギー利用状況

平成11年度に校舎地区に導入した太陽光発電設備は、定格出力 40kVA で、校舎地区の使用電力の一部を補っている。平成24年度の発電量は、45,647kWh であった。これは同年度使用電力の 2.25%にあたる。



太陽光発電パネル
(管理棟屋上)

③ 生ゴミ等の排出状況

本校の生ゴミ等は、契約を締結している有資格業者が運搬・処分しており、その大部分は宇部市環境保全センターへ搬出している。平成24年度の処分量については、別紙7のとおり、平成23年度比3.78%増となった。

④ 産業廃棄物の排出状況

本校の産業廃棄物は、契約を締結している有資格業者へ処分依頼した。24年度の処分量については、別紙8のとおりである。

⑤ 公用自動車の使用状況

ワゴン車2台、トラック1台、スクールバス1台を所有している。

ワゴン車2台については、来学者の送迎、各課の諸業務、教員の教育研究、地域社会との交流、県内教育機関との会議・打ち合わせ、学生課外活動等、頻繁に利用した。

トラックは、構内物品移動、実験資材の運搬、地域行事への参加等に利用した。利用頻度はワゴン車ほど高くないが、必要性は高い。

スクールバスは、宿泊研修、工場見学、海外インターンシップでの送迎をはじめ、課外活動での遠征用として利用した。

また、市内における業務においてワゴン車2台がすでに使われているときや寄宿舍入寮者の急患などにはタクシーを借り上げた。

近年は、県内各中学校へ出向いての学校紹介、入試情報の提供等で使用回数が増える傾向にある。

⑥ グリーン購入の状況

グリーン購入に努め、概ね達成できた。

1.2 温室効果ガス（CO₂）の排出の状況

本校の温室効果ガス（CO₂）の排出は、電気、ガス（都市ガス）、給湯ボイラー用のA重油、公用車のガソリン、軽油、冬季の暖房用としての灯油が該当し、排出量を比較した。

校舎地区においては、23年度1,072トンに対し24年度は1,189トンと1.1%（約117トン）増加した。

寄宿舍地区においては23年度は539トンに対し24年度は595トンと1.1%（約55トン）増加した。

学校全体としては、23年度は1,611トンに対し24年度は1,784トンと1.1%（約173トン）の増加となった。（別紙9）

なお、24年度は、太陽光発電により45,647kWh 発電しており、温室効果ガス（CO₂）に換算すると33.69[t-CO₂]である。これは本校全排出量の約1.89%に相当する。

温室効果ガス実排出係数は0.000738[t-CO₂/kWh]（中国電力管内における平成24年度分：平成25年12月環境省発表）を用いて計算した。

1.3 その他学内の取組の状況

① エコフェア2012 in UBEへの出典

11月18日（日）に、宇部市主催による「第3回 エコフェア2012 in UBE」が宇部市常盤公園で開催され、本校からは昨年に引き続き機械工学科の徳永仁夫准教授、渡邊大准教授が出展した。ディッシュ型太陽炉や太陽追尾装置の展示、スターリングエンジンの展示と実動実験、3D加工機を用いたオリジナルキーホルダー作製等を実施した。

昨年とは異なり晴天に恵まれたため会場には多くの来場者があり、宇部高専のテントにもさまざまな年代の方が来られた。展示内容に関する質問として、「どのような仕組みなのか?」、「実用化のめどは?」、「高専生が作ったのか?」、「どのような応用・発展が考えられるのか?」など様々な質問があった。また、エネルギー変換に関する共同研究の相談もあった。



宇部高専の出展テントの様子



来場者に説明する学生

② グリーンカーテンについての公開講座

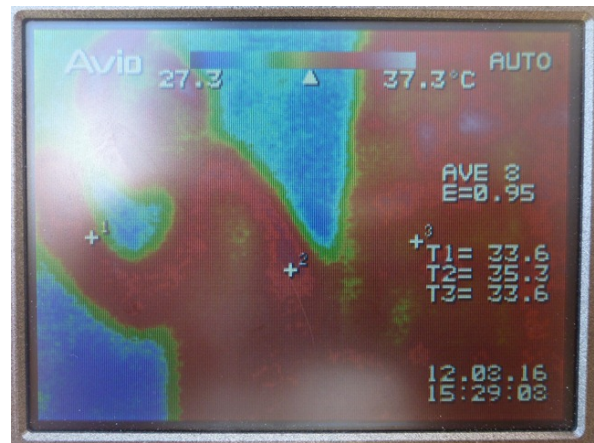
本校では平成24年8月16日（木）、17日（金）に「夏を涼しく過ごそう！グリーンカーテンの効果って何？」をテーマとして、「夏休み自由研究サポート講座（化学、生物、環境関連）」を開講した。参加者は物質工学科教員である杉本憲司講師の指導のもと、宇部高専学生課の前面にあるグリーンカーテンの効果調べた。効果を調べるために「グリーンカーテン」の前後及び「よしず」の前後で温度（放射温度含む）及び光量子量について測定を行った。また、「グリーンカーテン」と「よしず」設置による効果の違いについて検証をした。



図書館棟前のグリーンカーテン



グリーンカーテン裏の測定の様子



「グリーンカーテン」と「よしず」の表面温度の違い

③ ごみ減量の活動

電子メールを利用した諸連絡、諸会議資料の両面印刷等に努め、紙の使用量を減らす努力を引き続き行った。また、再利用可能な備品等は、学内での再利用を呼びかけ、機器等の廃棄物減量に引き続き努めた。

(ロッカー、会議用テーブル、会議用椅子、パイプ椅子、プリンタ、リサイクルトナー等、)

④ 省エネ対策

事務部を対象にお盆の前後を利用して、9日間の一斉休業を実施した。

⑤ 毒・劇物の管理状況

安全パトロール実施時に、毒・劇物の保管場所、保管方法等の管理の状況を点検した。(点検結果については、別紙4参照)

⑥ 教職員の通勤に関する状況

本校は、宇部市中心部から幾分離れ、住宅地の広がる小高い丘に位置する。最寄りの駅は2km程度離れ、市内を走るバス路線は本校前を通っているものの便数が少ない。このため、片道通勤距離が2km以上の教職員については、本人の申請に基づき審査の上、自家用車での通勤を許可している。

14 その他

①環境報告書に関する問い合わせ先

宇部工業高等専門学校 総務課施設係

TEL : 0836-35-4972

E-mail : sisetsu@ube-k.ac.jp

②本校のホームページアドレス

<http://www.ube-k.ac.jp>

建物一覧

地 区	建物名称	構 造	建面積	延面積
校舎地区	管理棟	RC3	891m ²	2,512m ²
	機械電気棟	RC3	641m ²	1,947m ²
	一般科棟	RC3	667m ²	2,030m ²
	物質棟	RC4	1,088m ²	4,056m ²
	制御棟	RC4	238m ²	837m ²
	経営棟	RC4	427m ²	1,639m ²
	専攻科棟	RC4	498m ²	1,870m ²
	地域共同テクノセンター棟	RC2+S2+SS4	297m ²	977m ²
	実習工場	SS1	1,058m ²	963m ²
	機械実験棟	RC2+S2	600m ²	621m ²
	図書館棟	RC3	1,080m ²	2,491m ²
	バス車庫	CB1	54m ²	54m ²
	物品倉庫	CB1	129m ²	129m ²
	守衛所	CB1	17m ²	17m ²
	薬品室1	CB1	20m ²	20m ²
	薬品室2	RC1	32m ²	32m ²
	ものづくり工房	RC1	132m ²	132m ²
	第1体育館	SS1	1,003m ²	1,003m ²
	第2体育館	SS1	988m ²	988m ²
	武道場	RC1	297m ²	297m ²
	情報処理室	RC1	42m ²	42m ²
	学生会館・専攻科(経営情報工学専攻)	RC2+S2	394m ²	823m ²
	油庫	RC1	13m ²	13m ²
	小 計		10,606m ²	23,493m ²
寄宿舍地区	クラブハウス	RC3	180m ²	547m ²
	北東寮棟	RC4	217m ²	832m ²
	北寮棟	RC3	470m ²	1,381m ²
	管理棟	RC4	177m ²	694m ²
	新寮棟	RC4	783m ²	2,839m ²
	中寮棟	RC3	290m ²	866m ²
	南寮棟	RC3	290m ²	866m ²
	食堂棟	RC+SS2	556m ²	790m ²
	浴場棟	RC1	180m ²	180m ²
	ボイラー棟	RC1	108m ²	108m ²
	物品倉庫	CB1	30m ²	30m ²
	小 計		3,281m ²	9,133m ²
その他	屋外運動場付施設	CB1	168m ²	168m ²
	プール付属室	RC1	87m ²	76m ²
	小 計		255m ²	244m ²
合 計			14,142m ²	32,870m ²

建物配置図

Campus Map



- ①管理棟 Adinistrallinn Wing
- ②一般棟 General Education Wing
- ③物質棟 Chemical and Biological Engineering Wing
- ④機電棟 Mechanical/Electrical Engineering Wing
- ⑤情報処理室 Data Processing Center
- ⑥実習工場 Training Shop
- ⑦制御情報工学科棟 Intelligent System Engineering Wing
- ⑧地域共同テクノセンター Collaborative Research Center
- ⑨機械工学実験棟 Machinery Test Wing
- ⑩経営情報学科棟 Business Administration Wing
- ⑪専攻科棟 Advanced Course Wing
- ⑫第二体育館 No.2 Gymnasium
- ⑬テニスコート Tennis Court
- ⑭図書館棟 Library Wing
- ⑮学生会館・専攻科棟(経営情報工学専攻)
Student Union・Advanced Course Wing for Business Administration
- ⑯第一体育館 No.1 Gymnasium
- ⑰武道場 Martial Arts Center
- ⑱ものづくり工房 Manufacturing Workshop
- ⑲守衛所 Guard House
- ⑳外来者用駐車場 Parking for visitors
- ㉑教職員用駐車場 Staff carparking
- ㉒教職員用駐車場 Staff carparking
- ㉓教職員用駐車場 Staff carparking
- ㉔外来者用駐車場 Parking for visitors

- ㉕寮管理棟 Dormitory Administration Wing
- ㉖新寮 New Dormitory Wing
- ㉗中寮 Center Dormitory Wing
- ㉘南寮 South Dormitory Wing
- ㉙北寮 North Dormitory Wing
- ㉚クラブハウス Club House
- ㉛北東寮 Northeast Dormitory Wing
- ㉜寮食堂棟 Dormitory Cafeteria Wing
- ㉝浴場棟 Bath Wing
- ㉞ボイラー室 Boiler Room
- ㉟屋外運動場付属施設
Facilities Attached to the Outdoor Sports Grounds
- ㊱プール付属室 Room Attached to the Swimming Pool
- ㊲水泳プール Swimming Pool
- ㊳野球場 Baseball Ground
- ㊴ラグビーコート
サッカーコート
Rugby and Soccer Ground

宇部工業高等専門学校環境方針

1. 基本理念

宇部工業高等専門学校は、地球環境問題が現在における最重要課題のひとつであると考えます。地球環境保全への貢献のためには、教育・研究を積極的に展開していくことが重要であり、地域環境との共生を柱とした環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

2. 基本方針

1. すべての活動によって発生する地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防に努める。
2. 地域社会との連携による環境保全活動に積極的に参画するとともに環境保全技術に関する教育・研究の実践を進める。
3. すべての活動に係わる環境関連法規、条例、協定等を遵守する。
4. この環境方針を達成するため、環境目的及び目標を設定し、教職員及び学生が協力してこれらの達成に努める。
5. 環境マネジメント組織を確立し、環境目的及び目標の定期的な見直しと継続的な改善を実施する。

本校は、この環境方針を全教職員及び全学生に周知するとともに、公式ホームページを用いて一般の人に開示します。

平成 18 年 5 月 9 日
宇部工業高等専門学校

宇部工業高等専門学校環境マネジメント組織・運用体制

本校の環境方針に基づく環境目的・目標を達成するための運用体制は次のとおりとする
各担当部署は、役割及び責任を認識し、積極的に環境問題に取り組まなければならない



宇部工業高等専門学校環境マネジメントシステムの役割と責任

校 長

- ・校長は、環境に配慮した事業活動を推進するための環境マネジメントシステムを円滑に運用する責任と権限を有する。
- ・環境方針・環境目的及び目標を決定する。
- ・環境マネジメント委員を指名する。
- ・環境マネジメントシステムの実施に必要な資源（人、専門知識、技術、資金）を確保する。

環境マネジメント委員会

- ・校長の諮問に応じて次のことを行う。
 - 環境方針に関すること。
 - 環境目的及び目標に関すること。
 - 環境目的及び目標の実施計画並びに達成状況の確認。
 - 環境報告書の作成及び公表に関すること。
 - その他、環境関連法規等の遵守に関すること。

環境管理責任者（事務部長）

- ・環境管理責任者は、環境マネジメントシステムを実施するための権限が付与される。
- ・環境管理責任者は、見直し及び改善のため、校長に環境マネジメントシステムの実施状況を報告する。

部門環境責任者

- ・部門環境責任者は、部門内の環境マネジメントシステムの実施について責任を有する。
- ・部門環境責任者は、見直し及び改善のため、環境管理責任者に意見を述べ又は提案することができる。

教職員及び学生

- ・教職員及び学生は、環境マネジメントシステムの実施に協力しなければならない。
- ・教職員及び学生は、見直し及び改善のため、部門環境責任者に意見を述べ又は提案することができる。

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標

宇部工業高等専門学校は、地球環境問題が現在における最重要課題のひとつであることを認識したうえで、地球環境保全への貢献のため、教育・研究を積極的に展開していくとともに、地域環境との共生を柱とした環境との調和と環境負荷の低減につとめるため、次のとおり具体的な行動計画を定める。

区 分	環境目的	環境目標	行 動 内 容	責 任 者
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓発	環境管理責任者(事務部長)
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事
			構内一斉清掃の実施(春・夏・秋)	教務主事
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者(事務部長)
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	各部門環境責任者
			環境関連共同研究等の実施	
			研究成果の公表	
環境との調和と環境負荷の低減	無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者
			省エネパトロール	総務課部門環境責任者
			省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者
			夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者
			水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者
			[電気]	各部門環境責任者
			不使用時の消灯の徹底	
			電気機器の節電	
			空調運転の温度厳守	
			その他節電に必要な対策	
			[上下水道]	
			節水の徹底	
			漏水等の確認修理	
			その他節水に必要な対策	
			[ガス]	
			空調運転の温度厳守	
			その他節節に必要な対策	
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者
			ごみの分別	各部門環境責任者
			ごみ減量と分別のPR活動	総務課部門環境責任者
			ごみの分別環境の整備	
			ごみの適正な処分	
			排出量の把握	
			不要になった物品の校内HP上への公開	
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者
			産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者
			排出手続きの法遵守	総務課部門環境責任者
	グリーン購入の取組推進	グリーン対象製品の購入	産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者
			実績の調査	総務課部門環境責任者
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の把握	総務課部門環境責任者
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画

区 分	環境目的	環境目標	行 動 内 容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓発	環境管理責任者(事務部長)	○											
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者							○					
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事							○					
			構内一斉清掃の実施(春・秋)	教務主事			○				○					
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者(事務部長)											○	
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事							○					
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施								○					
			環境関連共同研究等の実施	各部門環境責任者							○					
			研究成果の公表													
											適宜					
環境との調和と環境負荷の低減	無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者			○					○				
			省エネパトロール	総務課部門環境責任者				○					○			
			省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者							○					
			夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者					○							
			水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者							適宜					
			[電気]													
			不使用時の消灯の徹底								○					
			電気機器の節電								○					
			空調運転の温度厳守					○					○			
			その他節電に必要な対策								適宜					
			[上下水道]													
			節水の徹底	各部門環境責任者							○					
			漏水等の確認修理								適宜					
			その他節水に必要な対策								適宜					
			[ガス]													
			空調運転の温度厳守								○					
			その他節約に必要な対策								適宜					
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者							○					
			ごみの分別	各部門環境責任者							○					
			ごみ減量と分別のPR活動		○											
			ごみの分別環境の整備		○						○					
			ごみの適正な処分	総務課部門環境責任者							○					
			排出量の把握								○					
			不要になった物品の校内HP上への公開								適宜					
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者							○					
			産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者							○					
			排出手続きの法遵守								○					
			産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者							○					
	グリーン購入の取	グリーン対象製品	実績の調査	総務課部門環境責任者												○
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者							○					
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の	総務課部門環境責任者			○									
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者			○									
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事							随時					

平成24年度 環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																	実施状況
区 分	環境目的	環境目標	行 動 内 容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓発	環境管理責任者(事務部長)	○												適宜行った。
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者	○												各クラス、各研究室、その他各部署において概ね実施されて
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事	○												各クラス担任の指導により、1～3年生はHR時に、4、5年生は空き時間を利用して実施した。毎日実施されている教室も
			構内一斉清掃の実施(春・秋)	教務主事			○				○						定期試験前の年4回教室の清掃を実施した。
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者(事務部長)											○		実施した。
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事	○												実施した。
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	各部門環境責任者	○												実施した。
			環境関連共同研究等の実施		○												実施した。
			研究成果の公表		適宜												適宜、実施した。
無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者			○					○						特に、省エネパトロールや安全パトロールの際に行った。
		省エネパトロール	総務課部門環境責任者				○					○					夏季、冬季に実施した。
		省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者	○												適宜、実施した。	
		夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者					○									実施した。
		水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者	適宜												環境報告書で公表予定。	
		[電気]														各クラス委員への指導、学科会議での要請により、各クラス・研究室・演習室等において実施されている。その他の部署においては窓口業務等により昼休み時間も消灯できない部署以外はほぼ実施されている。	
		不使用時の消灯の徹底		○													
		電気機器の節電		○												各部署で実施されている。	
空調運転の温度厳守						○				○					学科会議等での依頼や省エネパトロール、ポスター等による注意喚起を行い、概ね、夏期の28度、冬期の20度が厳守され		

平成24年度 環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																		実施状況
区 分	環境目的	環境目標	行 動 内 容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
環境との調和と環境負荷の低減			その他節電に必要な対策	各部門環境責任者	適宜													学生へは省エネを心がけるよう指導している。その他実験室での部分消灯等を可能な範囲で実施した。放課後の教室巡回も行われている。
			[上下水道]															
			節水の徹底		○													概ね、節水意識をもって、適切に行われた。張り紙、シール等により節水を呼びかけている部署もある。
			漏水等の確認修理		適宜													実施した。
			その他節水に必要な対策		適宜													不必要に使用しないようにし、早めの止水を心がけている。
			[ガス]															
			空調運転の温度厳守		○													省エネパトロール等により、概ね厳守された。
			その他節約に必要な対策		適宜													ガス不使用時に必ず元栓を締めるようにしている。
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者	○													両面コピーや縮小印刷の徹底などにより、紙の節約を行った。また、書き損じ、段ボール等、再利用できるものは再利用した。
			ごみの分別	各部門環境責任者	○													種別のゴミ箱の設置、指定ゴミ袋の使用、その他金属材料等の分別が実施されている。
			ごみ減量と分別のPR活動	総務課部門環境責任者	○													わかりやすい分別表示を行った。
			ごみの分別環境の整備		○						○						整備済	
			ごみの適正な処分		○													資格を持った業者に処分を依頼した。
			排出量の把握		○													概ね、把握した。
			不要になった物品の校内HP上への公開		適宜													再利用可能と判断した物品について、メールにより、再利用を呼びかけ、再利用した。
					排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者	○											

平成24年度 環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																	実施状況	
区 分	環境目的	環境目標	行 動 内 容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者	○												一般廃棄物、廃液等を区分し、種類に応じて適切な容器に入れた上で指定保管場所に保管している。	
			排出手続きの法遵守		○												遵守されていた。	
			産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者	○												資格を持った業者に処分を依頼した。	
	グリーン購入の取組推進	グリーン対象製品の購入	実績の調査	総務課部門環境責任者												○	グリーン購入に努めた。	
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者	○												毒物・劇物は専用の鍵が掛かる保管庫で保管し、帳簿により残量を管理している。高圧ガスはボンベ庫に保管、年1回ガス集合装置特定自主点検を実施した。	
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の把握	総務課部門環境責任者			○											安全パトロールにより把握した。
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者			○											安全パトロールの際に、状況を確認し、適正に使用、保管されていた。
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事	随時												定期的に学校行事として実施。	

環境に関する共同研究等

共同研究・受託研究

共同・受託の別	相手方	研究担当者	研究題目	契約期間
共同研究	有限会社バブルタンク	中野 陽一	気体溶解器および微細気泡発生装置による水質浄化に関する研究	24.9.24～25.3.31
共同研究	JFEスチール株式会社	杉本 憲司	転炉スラグによる藻場基盤材としての基礎的研究(物理的効果検証)	24.10.1～25.3.31
共同研究	JFEスチール株式会社	中野 陽一	転炉スラグによる藻場基盤材としての基礎的研究(化学的効果検証)	24.10.1～25.3.31

科学研究費補助金

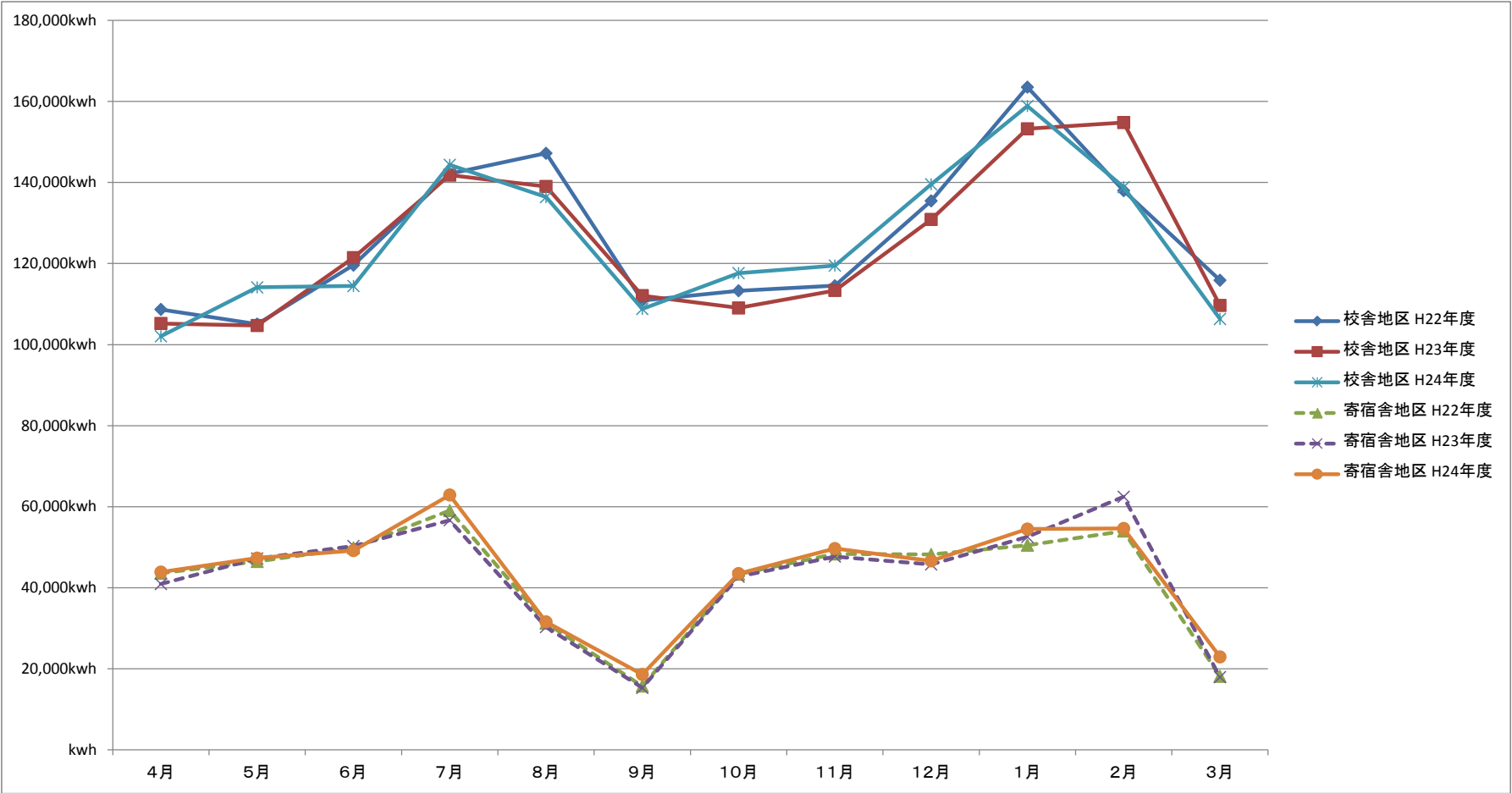
研究種目	研究題目	研究担当者
基盤(C)	亜硝酸化生物反応と亜臨界水熱反応による高濃度窒素含有工業廃水の処理技術の開発	山崎 博人
基盤(C)	アマモ種子供給でリンクした海域内の種母アマモ群落保全によるアマモ群落の間接的保全	中野 陽一

平成22-24年度 電気使用量の比較

地区	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
校舎地区	H22年度	108,684kwh	105,072kwh	119,604kwh	142,188kwh	147,228kwh	110,856kwh	113,292kwh	114,516kwh	135,480kwh	163,548kwh	138,000kwh	115,884kwh	1,514,352kwh
	H23年度	105,216kwh	104,712kwh	121,464kwh	141,828kwh	139,032kwh	112,092kwh	109,044kwh	113,376kwh	130,896kwh	153,264kwh	154,812kwh	109,668kwh	1,495,404kwh
	H24年度	102,048kwh	114,120kwh	114,456kwh	144,372kwh	136,392kwh	108,792kwh	117,648kwh	119,508kwh	139,572kwh	158,892kwh	138,864kwh	106,320kwh	1,500,984kwh
寄宿舎地区	H22年度	43,565kwh	46,469kwh	49,828kwh	59,021kwh	31,253kwh	15,723kwh	43,335kwh	48,324kwh	48,180kwh	50,489kwh	53,978kwh	18,127kwh	508,292kwh
	H23年度	40,910kwh	47,203kwh	50,271kwh	56,659kwh	30,286kwh	15,271kwh	42,725kwh	47,693kwh	45,739kwh	52,548kwh	62,433kwh	17,916kwh	509,654kwh
	H24年度	43,850kwh	47,302kwh	49,157kwh	62,882kwh	31,558kwh	18,592kwh	43,483kwh	49,656kwh	46,608kwh	54,470kwh	54,617kwh	22,912kwh	525,087kwh

H23年度比

校舎地区 (H23~24)	96.99%	108.98%	94.23%	101.79%	98.10%	97.06%	107.89%	105.41%	106.63%	103.67%	89.70%	96.95%	100.37%
寄宿舎地区 (H23~24)	107.19%	100.21%	97.78%	110.98%	104.20%	121.75%	101.77%	104.12%	101.90%	103.66%	87.48%	127.89%	103.03%

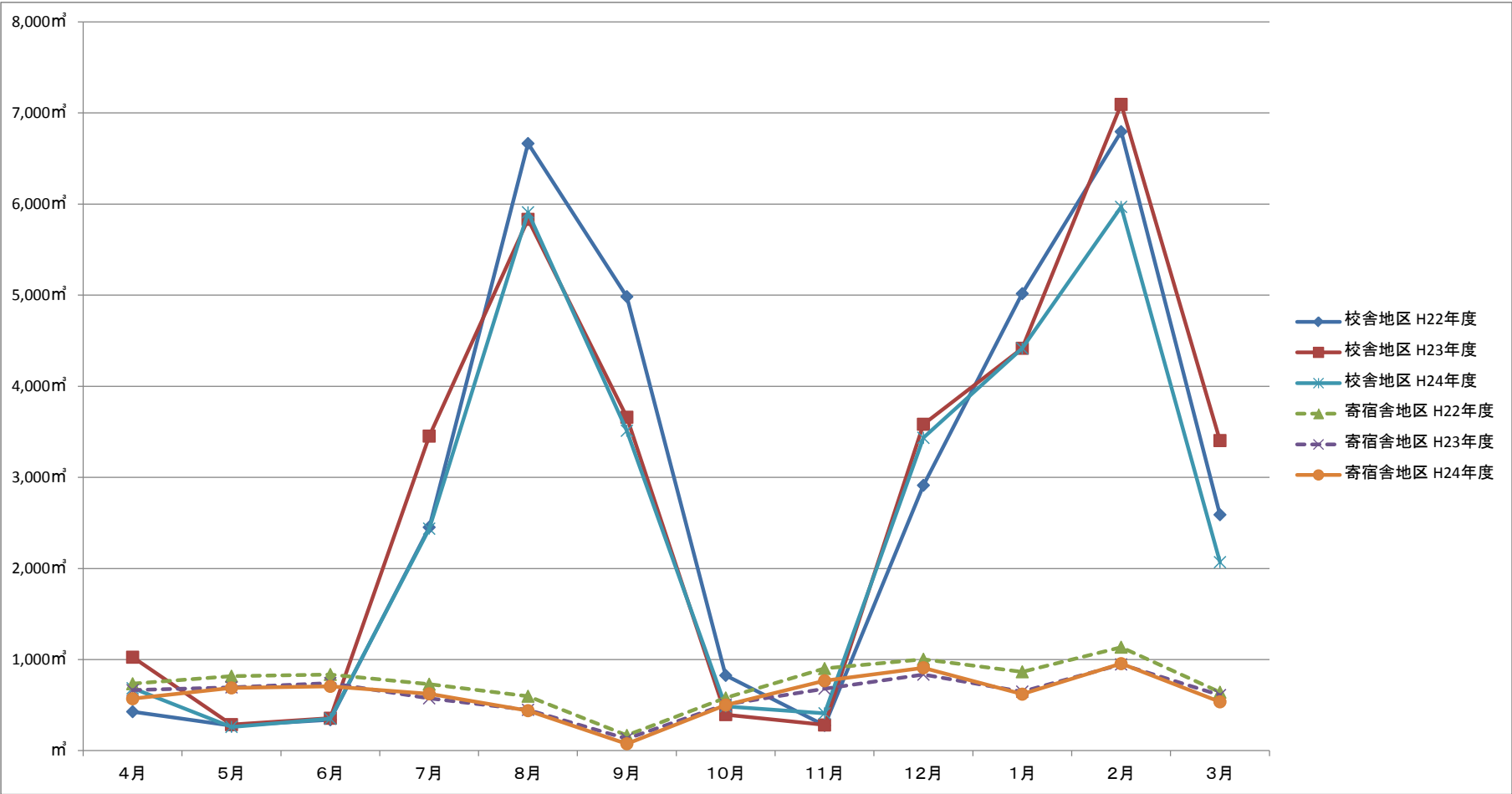


平成22-24年度 ガス使用量の比較

地区	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
校舎地区	H22年度	428㎡	275㎡	339㎡	2,452㎡	6,665㎡	4,984㎡	826㎡	277㎡	2,913㎡	5,017㎡	6,795㎡	2,590㎡	33,561㎡
	H23年度	1,026㎡	286㎡	356㎡	3,453㎡	5,832㎡	3,660㎡	396㎡	282㎡	3,583㎡	4,417㎡	7,094㎡	3,404㎡	33,789㎡
	H24年度	685㎡	261㎡	351㎡	2,437㎡	5,909㎡	3,512㎡	487㎡	410㎡	3,434㎡	4,416㎡	5,969㎡	2,069㎡	29,940㎡
寄宿舎地区	H22年度	735㎡	818㎡	837㎡	730㎡	598㎡	168㎡	579㎡	902㎡	1,004㎡	866㎡	1,136㎡	642㎡	9,015㎡
	H23年度	664㎡	695㎡	742㎡	575㎡	448㎡	132㎡	506㎡	681㎡	835㎡	648㎡	947㎡	610㎡	7,483㎡
	H24年度	570㎡	689㎡	706㎡	624㎡	439㎡	76㎡	501㎡	767㎡	910㎡	620㎡	955㎡	536㎡	7,393㎡

H23年度比

校舎地区 (H23~24)	66.76%	91.26%	98.60%	70.58%	101.32%	95.96%	122.98%	145.39%	95.84%	99.98%	84.14%	60.78%	88.61%
寄宿舎地区 (H23~24)	85.84%	99.14%	95.15%	108.52%	97.99%	57.58%	99.01%	112.63%	108.98%	95.68%	100.84%	87.87%	98.80%

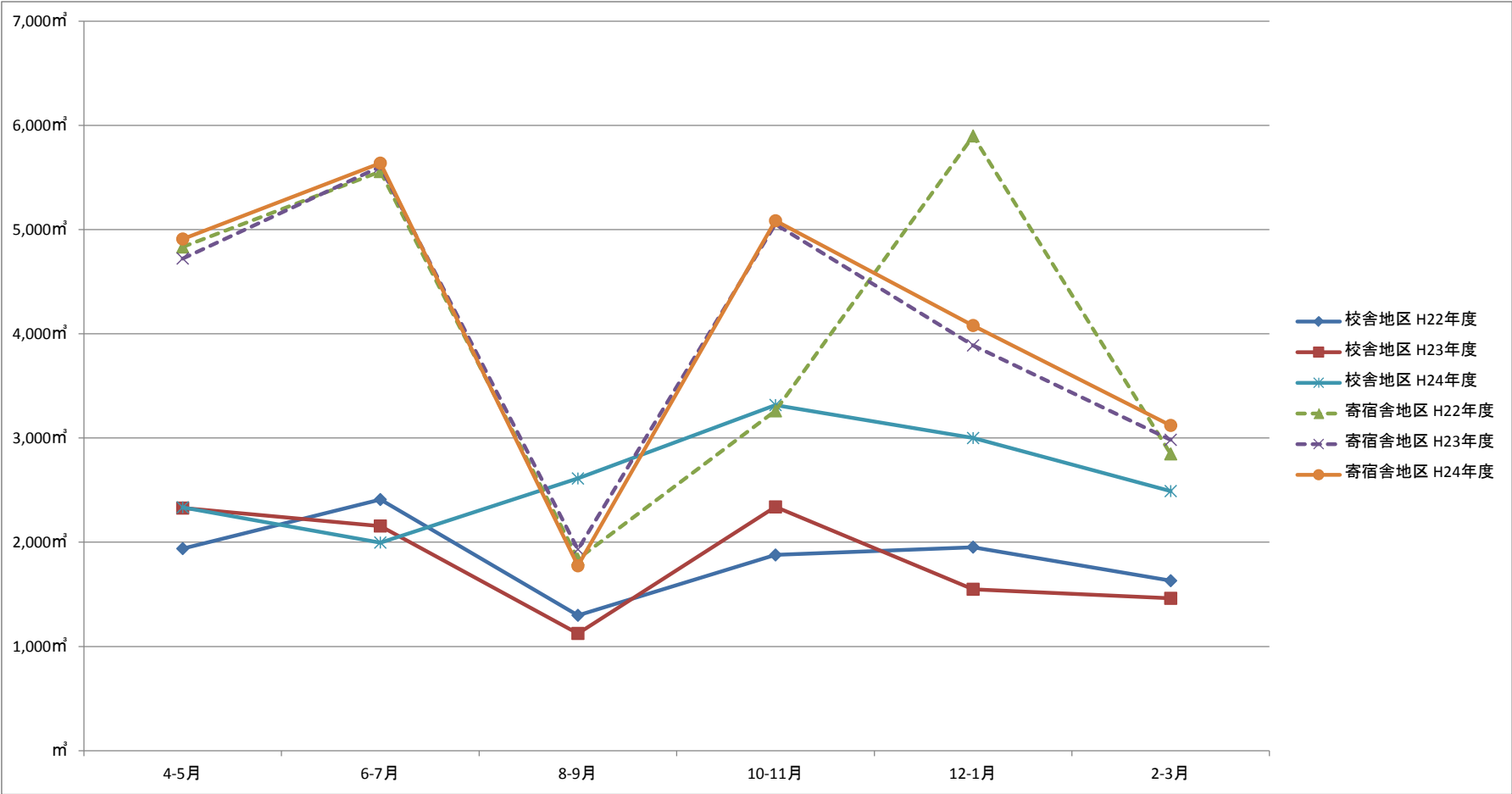


平成22-24年度 水道使用量の比較

地区	年度	4-5月	6-7月	8-9月	10-11月	12-1月	2-3月	計
校舎地区	H22年度	1,939㎥	2,410㎥	1,299㎥	1,878㎥	1,953㎥	1,631㎥	11,110㎥
	H23年度	2,328㎥	2,156㎥	1,125㎥	2,339㎥	1,549㎥	1,462㎥	10,959㎥
	H24年度	2,335㎥	1,997㎥	2,612㎥	3,317㎥	3,000㎥	2,491㎥	15,752㎥
寄宿舎地区	H22年度	4,833㎥	5,557㎥	1,839㎥	3,261㎥	5,899㎥	2,848㎥	24,237㎥
	H23年度	4,723㎥	5,605㎥	1,932㎥	5,052㎥	3,889㎥	2,983㎥	24,184㎥
	H24年度	4,910㎥	5,638㎥	1,774㎥	5,085㎥	4,080㎥	3,121㎥	24,608㎥

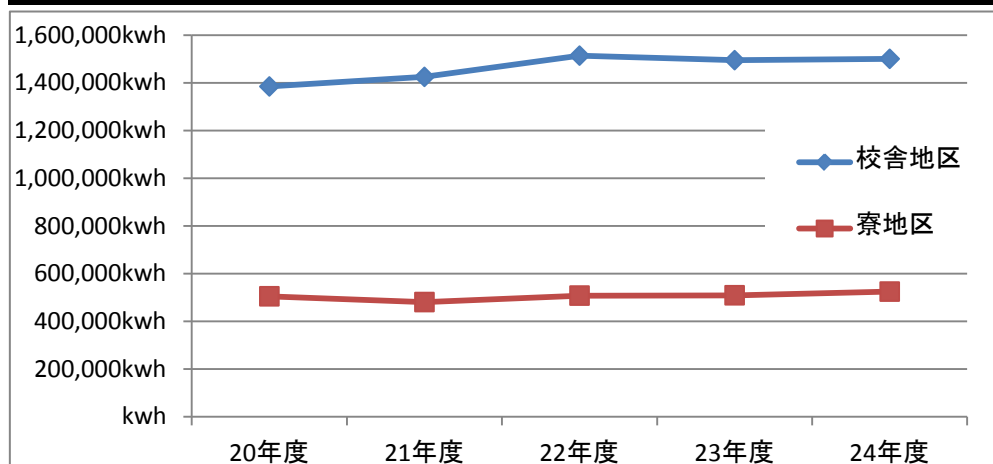
H23年度比

校舎地区 (H23~24)	100.30%	92.63%	232.18%	141.81%	193.67%	170.38%	143.74%
寄宿舎地区 (H23~24)	103.96%	100.59%	91.82%	100.65%	104.91%	104.63%	101.75%



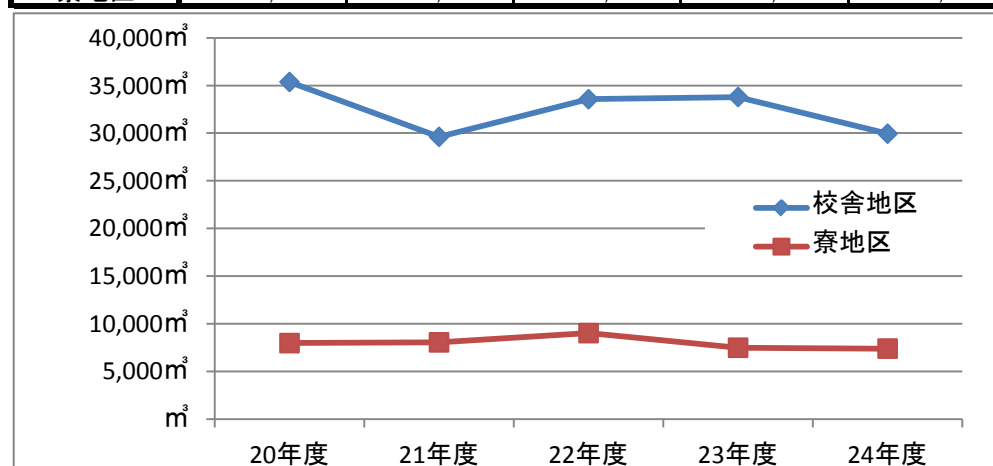
電力使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
校舎地区	1,385,160kwh	1,425,312kwh	1,514,352kwh	1,495,404kwh	1,500,984kwh
寮地区	505,381kwh	481,179kwh	508,292kwh	509,654kwh	525,087kwh



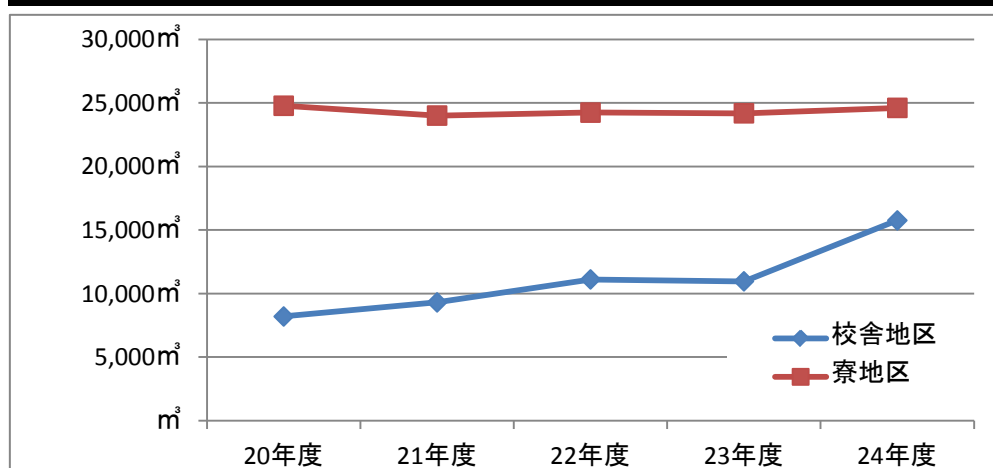
ガス使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
校舎地区	35,369m³	29,610m³	33,561m³	33,789m³	29,940m³
寮地区	7,967m³	8,048m³	9,015m³	7,483m³	7,393m³



水道使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
校舎地区	8,192m³	9,301m³	11,110m³	10,959m³	15,752m³
寮地区	24,776m³	24,003m³	24,237m³	24,184m³	24,608m³



生ゴミ等の排出量

排出品目	平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）			
	総排出量[kg／年] A=B+C	廃棄物として処理したもの 処理量B	資源化したもの 資源化量C	資源化率 C／A×100
1 段ボール	180kg		150kg	83.33%
2 その他古紙	900kg		800kg	88.89%
3 燃やせるごみ （上記のうち、厨芥類）	18,180kg	18,180kg		0.00%
4 木くず・剪定枝	360kg	360kg		0.00%
5 びん	1,680kg		1,680kg	100.00%
6 缶	1,680kg		1,680kg	100.00%
7 ペットボトル	810kg		810kg	100.00%
8 紙製容器包装	310kg	310kg		0.00%
9 プラ製容器包装	310kg	310kg		0.00%
10 蛍光灯・電池	180kg	180kg		0.00%
11 不燃物	1,250kg	1,250kg		0.00%
計	25,840kg	20,590kg	5,120kg	19.81%

排出品目	平成23年度比増減
1 段ボール	30kg
2 その他古紙	100kg
3 燃やせるごみ （上記のうち、厨芥類）	180kg
4 木くず・剪定枝	60kg
5 びん	180kg
6 缶	180kg
7 ペットボトル	10kg
8 紙製容器包装	10kg
9 プラ製容器包装	10kg
10 蛍光灯・電池	30kg
11 不燃物	150kg
計	940kg

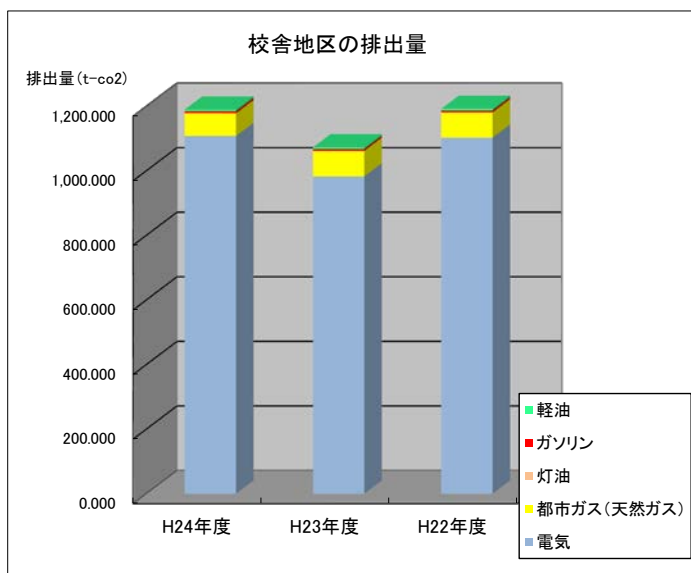
平成24年度 産業廃棄物の排出量

区分	排出量
木くず	750.000kg
金属くず	4,600.000kg
廃プラスチック	1,220.000kg
廃油	0.000kg
特別管理 廃油	0.000kg
汚泥	0.000kg
特別管理 汚泥(有害)	0.000kg
廃酸	0.000kg
特別管理 廃酸	0.000kg
特別管理 廃酸(有害)	0.000kg
廃アルカリ	0.000kg

平成22-24年度の温室効果ガス(CO₂)の排出量の比較

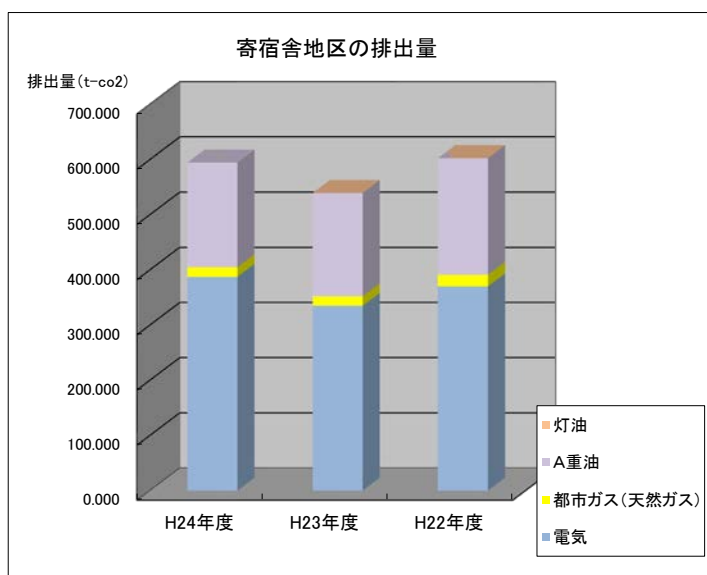
(単位:t-co2)

校舎地区	H24年度	H23年度	H22年度
電気	1,107.726	982.480	1,102.448
都市ガス(天然ガス)	70.059	78.750	78.218
灯油	0.311	0.204	0.169
ガソリン	6.603	5.651	5.832
軽油	4.783	5.155	4.999
計	1,189.482	1,072.240	1,191.666



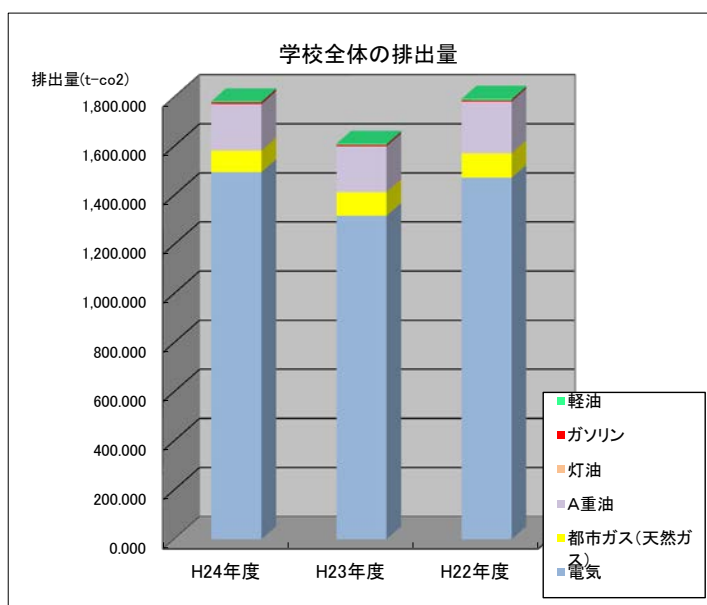
(単位:t-co2)

寄宿舎地区	H24年度	H23年度	H22年度
電気	387.514	334.843	370.037
都市ガス(天然ガス)	17.300	17.440	21.011
A重油	189.700	186.964	211.351
灯油	0.000	0.000	0.000
計	594.514	539.247	602.399



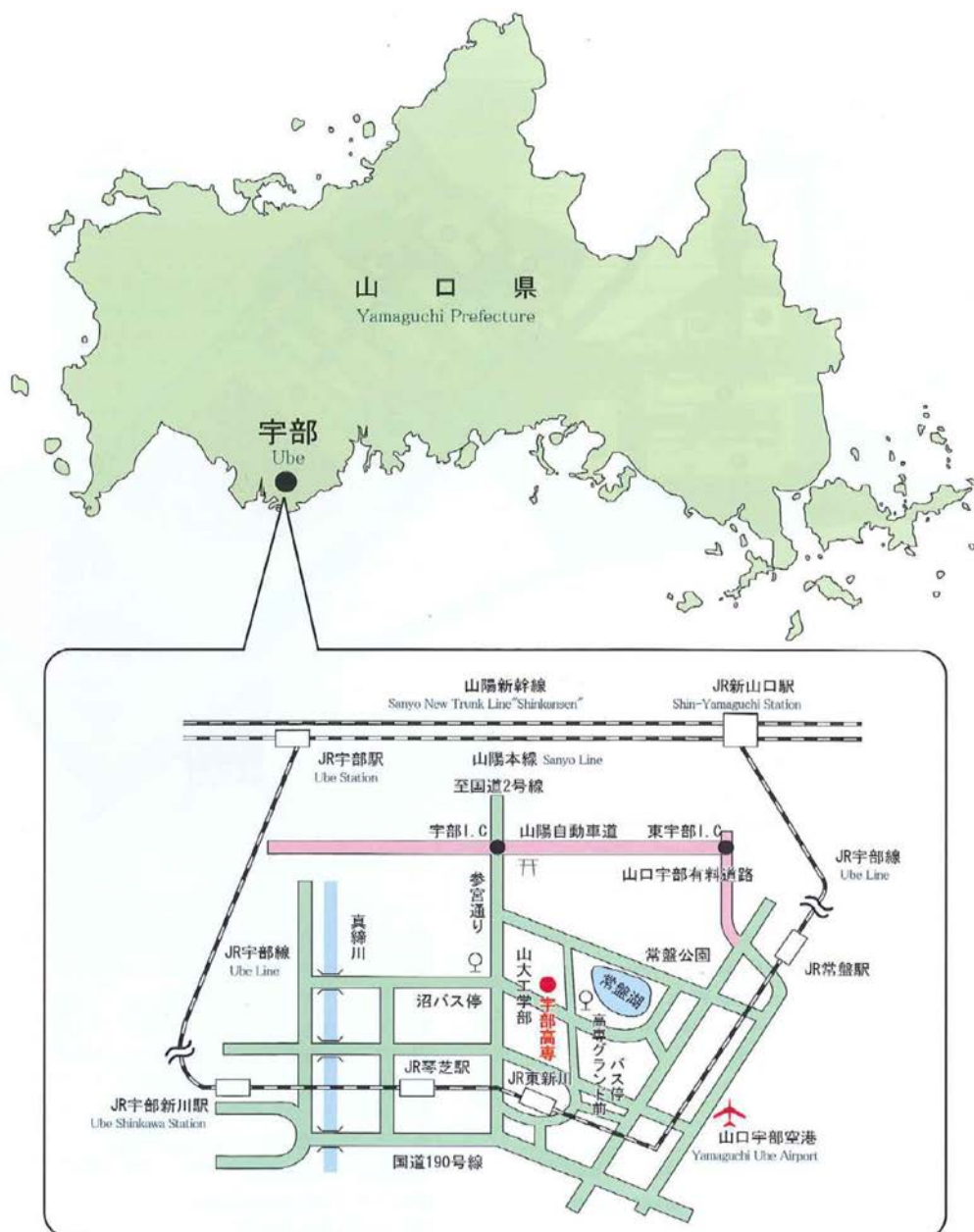
(単位:t-co2)

学校全体	H24年度	H23年度	H22年度
電気	1,495.240	1,317.323	1,472.485
都市ガス(天然ガス)	87.359	96.190	99.229
A重油	189.700	186.964	211.351
灯油	0.311	0.204	0.169
ガソリン	6.603	5.651	5.832
軽油	4.783	5.155	4.999
合計	1,783.996	1,611.487	1,794.065



学校位置図

Location Map



交通案内

Traffic Facilities

- 宇部新川駅から宇部市営バス 風呂ヶ迫行、ひらき台又は開・萩原行（循環）に乗車して高専グランド前下車徒歩3分（所要時間約20分）
- 新山口駅から車で約40分
- 宇部駅から車で約30分
- 山口宇部空港から車で約15分

- From Ube Shinkawa Station: take the Ube City Bus bound for Furogasako, Hirakidai, or Hiraki-Hagiwara (loop-line) and get off at the Kosen Ground Mae bus stop, 3 minutes on foot from the bus stop (20 minutes in total)
- From Shin-yamaguchi Station: 40 minutes by car
- From Ube Station: 30 minutes by car
- From Yamaguchi Ube Airport: 15 minutes by car

宇部工業高等専門学校
環境マネジメント委員会